

佐々成政の生涯 —「戦国越中の覇者」の実像—

萩原 大輔(富山市郷土博物館 主任学芸員)

◆はじめに

- * 成政死後 400 年以上経った現代人の成政イメージ

戦国時代の越中国主・富山城主

富山の土木インフラを整備したお殿様 … いたち川、佐々堤

織田信長の家臣、前田利家のライバル

秀吉嫌いの急先鋒、「さらさら越え」、悲運の知将

- * 成政と同時代を生きた人たちの成政イメージ

「武者の覚え」＝ 武士の鑑

「戒力」(戒律を守ることによって得られる不思議な力) の持ち主

- * 近年確認された成政の詠歌から何が分かるのか？

「慕いゆく 姿もわかぬ 黄昏に なおたどりぬる 恋の道かな」

⇒達筆で和歌や茶も嗜む文武両道の名将

現代とは比べものにならぬ評価と知名度

◆第 1 章 成政と信長

- * 成政が初めて歴史資料に登場するのは、いつか？

永禄 4 年 (1561) 5 月 軽海の戦い (織田信長 VS 斎藤龍興)

…池田恒興と 2 人で、敵将・稲葉又右衛門の首を取る活躍

→その後も戦功を重ね、信長直属の親衛隊「黒母衣衆 (くろほろしゅう)」筆頭に抜擢

- * 成政はなぜ信長から重用されたのか？

元亀元年 (1570) 6 月 姉川の戦い (VS 浅井長政・朝倉義景)

…小谷城攻めの前哨戦で殿 (しんがり) の大役、鉄砲隊を指揮

天正 3 年 (1575) 5 月 長篠の戦い (VS 武田勝頼)

…前田利家らとともに「鉄砲奉行」として、武田の騎馬隊を撃破

※鉄砲伝来 1543 年、信長の鉄砲隊導入は 1560 年代後半

⇒信長にとって成政は、その初期から鉄砲隊の指揮を任せられる貴重な存在

- * 成政が富山へ来るのは、いつか？ それは何のためか？

天正 8 年 (1580) 12 月頃 上杉景勝軍攻略の切り札として越中入国

→翌 9 年 (1581) 1 月～2 月の間に、信長から越中国主に任じられる

上杉方の拠点 (新庄・小出・魚津) を攻撃

◆第2章 成政と秀吉・家康

*主君信長を失った後の成政はどう動いたのか？

秀吉に対する挑戦① 天正11年(1583)4月「賤ヶ岳の戦い」

【背景】「本能寺の変」(天正10年6月2日)後の織田家中における主導権争い

【構図】羽柴秀吉VS柴田勝家

…成政は、宿敵の上杉景勝が秀吉と結んだことから勝家方につく

【経過】前田利家の裏切りにより、秀吉方の大勝

秀吉、越前北庄城を攻め落とす、勝家とお市が自害

→その後、勝家に味方した加賀の佐久間盛政の居城・金沢城を占拠

→成政は金沢へ赴き、秀吉と直談判して和睦、越中国主の地位も認められる

秀吉に対する挑戦② 天正12年(1584)3月「小牧・長久手の戦い」

【背景】天正11年8月 秀吉による大坂城の築城

【構図】羽柴秀吉VS織田信雄・徳川家康

…天正12年8月頃 成政、家康からの誘いに応じ、秀吉に反旗を翻す

→9月11日 未森の戦い(成政VS前田利家) 秀吉方の利家軍に惨敗

11月中旬 信雄、単独で秀吉と講和 →家康も人質を提出して停戦

12月5日以降～翌年1月21日頃 「さらさら越え」

※成政はどのような道筋をたどり、家康のいる浜松へ赴いたのか？

候補1:立山ルート ザラ峠・針ノ木峠越え→大町

候補2:飛騨ルート 猪谷→飛騨高原→安房峠越え→松本平

候補3:糸魚川ルート 上路越え→糸魚川(根知)→千国街道

*秀吉への降参 成政は呉羽山の白鳥城で降参したのか？

天正13年8月 秀吉の越中攻め、成政打倒へ7万人の大軍

成政は剃髪し秀吉に降参、新川郡(神通川以東)のみ安堵される

→その代わり、摂津国能勢郡を新たに与えられ、大坂で秀吉の側近くに仕える

*成政はその後どうなったのか？

天正15年(1587)3月1日 九州島津攻めへの参戦

秀吉の脇を固める、「羽柴」の名字、「侍従」という官職を授かる破格の待遇

→九州島津攻めの功により、肥後国(現熊本県)の大名に拔擢

成政の実績・能力への期待 ⇔ 急激に版図を拡大させた秀吉政権の人材難

*成政はなぜ切腹を命じられたのか？

5月末～6月 成政、隈本城を本拠として肥後入国

7月23日までに 肥後の国衆たちが一揆を起こす 「肥後国衆一揆」

10月には、豊前国・筑前国へ一揆が飛び火

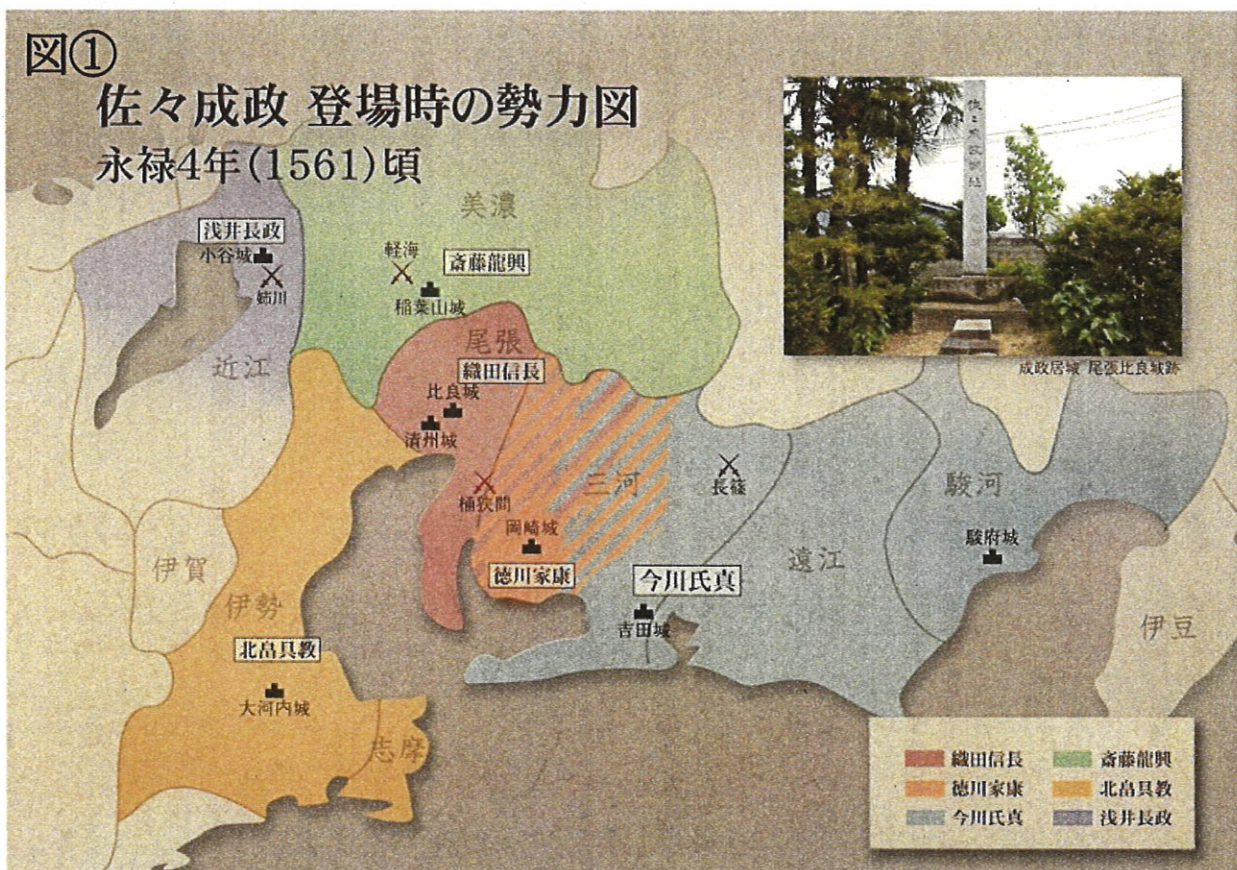
※秀吉は、一揆発生の原因が成政の失政にあると認識
 →秀吉は黒田官兵衛ら大軍を動員し、年内までに肥後国衆一揆を鎮圧
 ⇒一揆を起こした首謀者も、成政もともに死罪を申し付けられる「喧嘩両成敗」
 天正 16 年（1588）閏 5 月 14 日 摂津国尼崎で成政は切腹
 ※イエズス会宣教師ルイス・フロイスによれば、「潔い最期を遂げた武士」

◆むすびにかえて 成政と富山

- *歴史教育の格好の素材となりうる、「武者の覚え」佐々成政
 信長や秀吉に仕え、家康とも親しかった越中のお殿様
 戦国時代に伝来した「鉄砲」の部隊を指揮し活躍、一国一城の主に出世
- *記録より記憶に残る、郷土の英雄・佐々成政
 越中を治めたのは、わずか 4 年半 富山城主だったのは、さらに短く約 3 年
 今なお富山市内に成政ゆかりの地が数多く残る ※伝承≠史実
 鉄崎山の埋蔵金伝説、佐々堤の築造、いたち川の開削、磯部堤の一本榎
 稲荷神社の墨染桜、千歳神社、日枝神社の弁慶石、円隆寺の「さんさい踊り」
 ⇒様々な形で語り継がれてきた事実が、富山における成政の存在の大きさを示す

[主要参考文献]

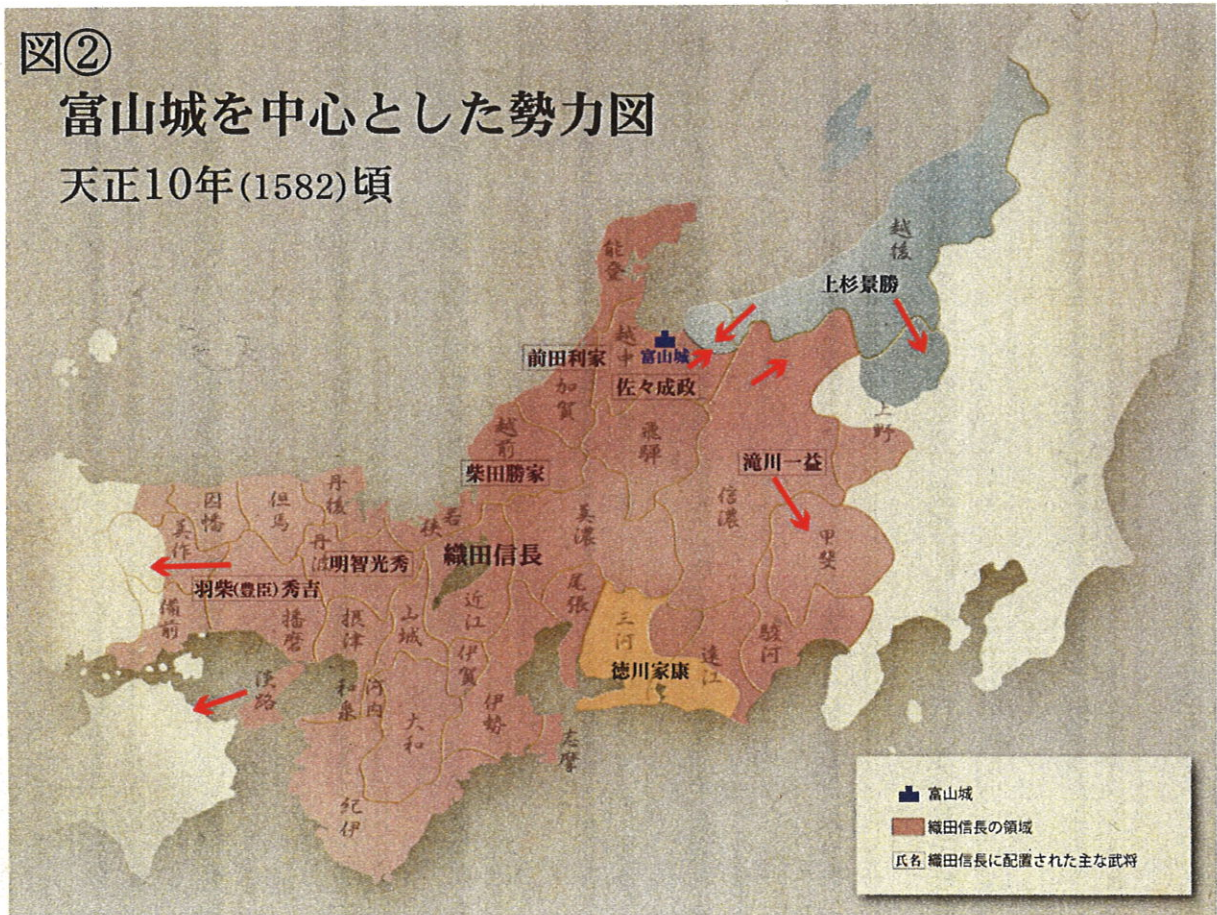
萩原大輔『武者の覚え 戦国越中の覇者・佐々成政』（北日本新聞社、2016年）



図②

富山城を中心とした勢力図

天正10年(1582)頃



図③

小牧・長久手の戦い 対立関係図

天正12年(1584)9月頃

